

第2章 銃後

子どもたちの生活

すべてが手作りのベースボール

川東

みのも

實さんのお話から

○国民学校 昭和十六
(一九四一)年の国民学校
令というきまりにより、
これまでの小学校を改め
て成立した、皇国民の育
成をねらいとする教育機
関。

昭和二十(一九四五)年八月十五日、昭和天皇が全国民にラジオでお言葉を述べて、戦争が終わりました。その時、私は苗穂国民学校の六年生でした。大人はみんな泣きました。まさか日本が戦争に負けるとは思っていませんでしたから、それからが大変でした。食べ物が無い、着る物もない、お金もない。ないないづくしで、どうしたらこれから生活できるだろうと当時の人たちは考えていたと思います。

私が通っていた苗穂国民学校は、マンモス校で千五百人の子どもがいました。一学年で六学級ずつありましたが、勉強道具もなければ、カバンもありませんでした。帳面一冊と鉄板で作った筆入れ、消しゴム一個、鉛筆一本を風呂敷に包み、それを腰や首に巻いて学校に行きました。そして、学校では、朝から昼の三時ごろまで、畑でビールのもとになるホップのつみ取り作業などの勤勞奉仕を行いました。

そして私の家は馬車追いをやっていたので、家の馬小屋から、馬につけたりヤカーで、苗穂の札幌刑務所や、丘珠の飛行場のあたりまで毎日馬糞を運び、南瓜、芋、大根、にんじん、ごぼうなどを作りました。今は美しい大通公園も、戦争中は西一丁目から一部を除いて十三丁目まで全部畑になっていました。みんなが縄を張って、春に食べるものを植えたのです。

当時の食べ物といったら、朝、昼、晩、南瓜と芋ばかり。主食と言えば、南瓜とごしよいも(じゃが芋)、お昼のお弁当はサツマイモ。それしかありませんでした。ですから、当時は皮膚の色も黄色くなって、目の玉だけが白く光っているような感じでした。米は一週間に一人一

○配給 米や味噌、砂糖等の食べ物などの物資を、生活の必要に応じ、平等に割り当てて配る制度。砂糖・マッチの切符制の導入が最初。米については昭和十六年に始まった。

合しか配給になりませんでした。だから、食べ物ぞうすいは雑炊ばかりでした。その雑炊は汁しるばかり多くて、大根の葉っぱをきざんで、米をほんの少し入れるだけでした。南瓜は、皮をむいて中身を細かくきざんで南瓜おかゆにしました。とにかく当時はお米が欲ほしかったです。

私の父は昭和二十年八月一日に四十二歳さいで亡なくなりました。私は長男で、姉と弟二人と妹二人がいましたが、家は貧乏びんぼうのどん底でした。母は私たちのために、一生懸命いっしょうけんめい働いてくれました。そして私は、六年生で馬車追いをすることになりました。馬というのは、大きくて目がかわいくて、大人の言うことはよく聞きますが、私は子どもとき小さかったので、言うことを聞いてくれませんでした。馬どうに胴どうをかけるにも、みかん箱やりんご箱をふみ台にしました。

戦中戦後を通して、夏休みには豊平川に流木ねんりょうを拾いに行つて燃料にしました。また、家

すべてが手作りのベースボール



畑になった大通公園

イメージ図

の前に鉄道が通っていて、カーブのところ
スピードを落とすときに、美唄炭鉱から来る
炭鉱列車が石炭をこぼすので、バケツと火バ
サミでその石炭を拾いました。また、鶏や
うさぎなどは食べましたが、鶏の卵は高級品
で、病人以外は食べられませんでした。それ
で、鶏が卵を産むのを待って、卵を取って食
べました。

戦時中は、遊び道具もない時代でしたが、
石けり、缶けり、パッチ、それから「どんど
こどん」やビー玉で遊びました。自転車のリ
ング転がしもはやっていました。

楽しかったのがベースボールです。戦争中
でしたが、私たちはベースボールと言ってい
ました。豊平川のわきに、グラウンドを子ど
も達で作ったのです。グローブがないから、
軍手を二枚ぐらい重ねた上に毛糸の手袋をか
ぶせてグローブ代わりにしました。ボール
は、最初は毛糸を巻いたのですが、軽くて
バッターまで届かないので、豊平川の石を入



イメージ図

○封鎖 敗戦後の昭和二十一年（一九四六）年、進駐軍がインフレや食糧難対策として実施した預金封鎖。同年三月から新円に切り換えた。

れて毛糸を編んで結んで、釣りのテグスをぐるぐる巻きにすると、ちょうどよいボールになりました。ベースは板。バックネットもないから、鳥小屋の網でネットを作って、日が暮れても野球をしていました。

戦争に負けてからは、封鎖といって、いくらお金を持っても今までのお金は使えなくなりました。

私は進学しなかったのですが、「兄さん悪いけど、お金がない。高校へは行かなくてくれ。」と母に言われ、三日間布団の中で泣いてあきらめました。苗穂駅前まで市電が通っていたのですが、馬を追って駅前を通るときには、高校に通う同級生に見られるのが嫌で、色眼鏡をかけ、麦わら帽子をかぶって、よそを向いていたこともありました。私たちの時代は、とにかく長男は親孝行をしないとだめだったのです。

やはり人間は生きていくのではなくて、生かされているのです。みなさんも、それぞれ兄弟仲良く、お母さんお父さんを大事にして、みんなの幸せを思ってください。たくさんの友達を持って、人生を愉快に楽しく過ごし、素晴らしい世の中にしてください。

DATA

平成23年度東区平和事業
聞き取り

- ・平成23年11月4日
- ・苗穂小学校



川東 實(かわひがし・みのる)さん

- ・昭和8(1933)年生まれ
- ・札幌市東区在住